

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は昭和46年に小樽市銭函で生まれ、小学校5年生のときに帯広へ転校した時のあだ名が『ゼニバコ』でした。大学では水分析を専攻してましたが、就職はなぜか建設コンサルタントの土木設計でした。それから、今まで28年間土木設計一筋でやってまいりました。

現在の職場は、総勢8名の道路グループで道路・道路構造物設計を行っております。近年は、技術提案書の作成や若手育成に力を入れております。

現在の私があるのは、尊敬する上司の方々からのご指導のおかげです。初めて勤務した会社の上司からは、仕事のやり方や構造物設計に関する技術を教わりました。その上司は、小規模な構造物は市販ソフトではなく自作のエクセルで構造計算をしていました。私もそれを見習ったおかげで、構造計算の仕組みがよく理解できました。現在の会社で今は退職された上司からは、防災対策に関する技術を教わりました。法面の災害現場で私とその上司とで現地踏査に行き、その次の日にその上司は、被災状況、被災原因、対策案3案を手書きでまとめたA4用紙1枚を私に見せてくれました。「技術士はすごい！」と思い、私はその上司を目標に、技術士(建設-道路)と総合技術監理部門を取得致しました。建設部門の技術士試験は9回目でやっと合格しました。合格する前の年は京都大学の藤井聡教授の本を読んでいたため、解答用紙に「財政政策の拡大が重要」と政府の施策と異なる内容を記述しC判定を頂き、その次の年は反省して「財源不足なので選択と集中」と記述し、めでたくA判定を頂きました。今後は、自己研鑽を続けるとともに、これからの北海道、日本を担う土木技術者を育成していきたいと思っております。

佐々木 貴章(ささき たかあき)

- 建設部門(道路)
- 総合技術監理部門(建設)

勤務先

株式会社東亜エンジニアリング



→次号は、堂領弘昌さん(建設部門)

大学卒業後、土木工事の施工管理を7年経験し、現在の会社に入社してからは工事積算や北海道開発局発注の工事計画関係業務に携わっています。函館の普通高校から北海道工業大学土木工学科へ進学したのですが、正直に言うと土木に興味をもって志高く進んだ道ではありませんでした。就職も厳しい時代でしたから雇ってもらえるなら何処でもいいといった安易な考えで友人から紹介

してもらった建設会社に就職したくらいです。しかし、働くうちに土木の仕事が次第に楽しくなり、自分が好きだと思える仕事に変わっていきました。そんな私でも技術士になれたのは、土木の仕事が楽しいものだと気付かせてくれた上司や仲間の存在、受験に際し全面的なバックアップをしてくれた会社や親身に指導してくれた諸先輩方がいてくれたからこそ、多くの方々からの支援を受けて今の私が在ることを実感しています。私も一般的に中堅と言われる世代ですので、今度は私が土木の魅力を伝え、周りを支援する立場として業界の課題でもある技術者不足の解消に尽力していきたいと考えています。現在、会社では文理不問で新卒採用を行い、働いてからの経験の重要性を伝えながら若手技術者の育成に努めています。また、働くうえでは健康であることが大事ですので、体型維持や健康管理についても伝えていきたいと思っております。ちなみに私の場合、夏はゴルフ、冬はクロスカントリースキーと体を動かしてはいるのですが、消費した分以上にカロリーを摂取してしまうのでなかなか痩せません(笑)

今回は、学生時代からお世話になっている先輩の伊藤さん・河村さん・菅原さんからバトンを受取り執筆させていただきました。拙い文章ではありますが次の方へ無事繋げることができれば幸いです。

高木 誠(たかぎ まこと)

- 建設部門
(施工計画、施工設備及び積算)

勤務先

株式会社トーホーエンジニアリング



→次号は、松本博志さん(建設部門)